

夢は、K-1の世界チャンピオン 頂点を目指し続けたい



正木 翔夢さん(大府南中1年)

11月23日に開催された第15回J K J O全日本ジュニア空手道選手権大会。ジュニア最高峰の舞台である同大会は「カラテ甲子園」とも呼ばれ、全国から強豪が集まります。試合は学年・体重別で行われ、突き・蹴りありの直接打撃制で、1分30秒で勝敗が決まります。その大会で中学1年男子42キロ未満の部に出場し、見事頂点に輝いた正木翔夢さん。トーナメント方式で開催された同大会は優勝までに5勝しなればならず、「試合回数が多くて大変でしたが、気持ちを強く持って闘うことができました。1年間ハードな練習をして自分を追い込んできたので、優勝できて本当にうれしかったです」と大会を振り返ります。

正木さんは、先に空手を始めていた兄の影響で6歳から空手を始め、これまでに5回も全国の頂点に輝いている実力者。その強さの秘訣は「気持ちを強く持つこと。弱気になったらそこでおしまいなので、常に気持ちを意識して闘っています」と語ります。しかし、空手にはけがが付きもの。けがで自分だけ十分な練習ができないときは、気分が落ち込むことも。「けがはしょうがないと気持ちを切り替えて、体幹トレーニングやシャドー練習など、けがをしていてもできることをひたすらや

るようにしています」と強くなるために貪欲な姿勢を崩さない姿に正木さんの本領がうかがえます。

「空手は自分の生活の中心」だと話す正木さんは、週4日の稽古に加え、自主練を行い、ほぼ毎日空手に打ち込みます。その魅力について「頑張って練習してきたことが、結果として必ず表れます。大会で優勝するともっと頑張ろうと思えますし、自分が憧れていたコンビネーション技を習得できるとすごくうれしいです」と話す正木さん。さらに「いろいろな大会を通して、学校以外でたくさん仲間ができたのも魅力の一つですね」と笑顔を見せます。

今後については「学年が上がっても引き続き優勝し続けていけるように練習を頑張ります。そして、将来の最終目標であるK-1の世界チャンピオンになりたいです」と目を輝かせます。現在の自分に決して満足することなく、強い気持ちを持ち続ける正木さん。世界一の頂点を見据えて、彼の飽くなき挑戦は続きます。



▲熱心に稽古に励む正木さん

cover

2月11日に市文化・スポーツ活動表彰式が開催され、記念アトラクションとして、世界三大音楽コンクールの一つである第18回シヨパン国際ピアノコンクールのセミファイナリストに輝いた進藤実優さんが、リスト作曲の「ハンガリー狂詩曲第12番」を披露していただきました。

